

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	大学院の設置								
フリガナ設置者	ガッコウホウジン フクハラガクエン 学校法人 福原学園								
フリガナ大学の名称	キュウシュウキョウリツダイガクダイガクイン 九州共立大学大学院 (Kyushu Kyoritsu University Graduate School)								
大学本部の位置	福岡県北九州市八幡西区自由ヶ丘1番8号								
大学の目的	教育基本法及び学校教育法に則り、建学の精神「自律処行」に基づいて、広く知識を授けると共に深く専門の学芸を教授研究し、知的道徳的及び応用的能力を展開し、もって人格の完成をめざし健全な国民を育成することを目的とする。								
新設学部等の目的	九州共立大学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、文化の進展に寄与することを目的とする。 また、スポーツ学研究科は、高い専門性と実践力を持ち、地域社会ひいては世界のスポーツ振興に貢献できる人材を育成することを目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	スポーツ学研究科 [Graduate School of Sports Science] スポーツ学専攻 [Major in Sports Science] 計	2年	5人	—人	10人	修士（スポーツ学）	平成30年4月 第1年次	福岡県北九州市八幡西区自由ヶ丘1番8号	
【基礎となる学部】 スポーツ学部 スポーツ学科									
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	該当なし								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	スポーツ学研究科 スポーツ学専攻	講義	演習	実験・実習	計	30 単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
	新設分	スポーツ学研究科 スポーツ学専攻（修士課程）	7人 (7)	5人 (5)	6人 (6)	—人 (—)	18人 (18)	—人 (—)	2人 (2)
		計	7 (7)	5 (5)	6 (6)	— (—)	18 (18)	— (—)	— (—)
	既分	共通教育センター	4 (4)	1 (1)	5 (5)	— (—)	10 (10)	— (—)	77 (77)
計		4 (4)	1 (1)	5 (5)	— (—)	10 (10)	— (—)	— (—)	
合計		11 (11)	6 (6)	11 (11)	— (—)	28 (28)	— (—)	— (—)	
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計		
	事務職員		46人 (46)		15人 (15)		61人 (61)		
	技術職員		1人 (1)		—人 (—)		1人 (1)		
	図書館専門職員		1人 (1)		—人 (—)		1人 (1)		
	その他の職員		—人 (—)		—人 (—)		—人 (—)		
計		48 (48)		15 (15)		63 (63)			
大学全体									

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	校 舎 敷 地	56,190.93 m ²	— m ²	— m ²	56,190.93 m ²				
	運 動 場 用 地	94,242.89 m ²	— m ²	— m ²	94,242.89 m ²				
	小 計	150,433.82 m ²	— m ²	— m ²	150,433.82 m ²				
	そ の 他	115,977.26 m ²	— m ²	— m ²	115,977.26 m ²				
合 計	266,411.08 m ²	— m ²	— m ²	266,411.08 m ²					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
		62,584.37 m ² (62,584.37 m ²)	— m ² (— m ²)	— m ² (— m ²)	62,584.37 m ² (62,584.37 m ²)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設				
	49 室	19 室	9 室	8 室 (補助職員 1 人)	2 室 (補助職員 1 人)				
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数					
		スポーツ学研究科 スポーツ学専攻		18 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点		
	スポーツ学研究科 スポーツ学専攻	230,799 [52,239] (225,079 [52,119])	4,146 [1,140] (4,146 [1,140])	20 [20] (20 [20])	2,318 (2,308)	— (—)	— (—)		
	計	230,799 [52,239] (225,079 [52,119])	4,146 [1,140] (4,146 [1,140])	20 [20] (20 [20])	2,318 (2,308)	— (—)	— (—)		
図 書 館		面積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数				
		4,933.31 m ²		431	236,000				
体 育 館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
		15,971.02 m ²		野球場1面、サブ野球場1面、人工芝サッカー場1面、人工芝ラグビー場1面、人工芝多目的コート1面、第3種公認陸上競技場1面、投擲場1面、テニスコート5面、ウェイト場、トレーニング室					
経 費 の 見 積 り 及 び 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
	経費の見積り								
	教員1人当り研究費等		300千円	300千円	—	—	—	—	
	共同研究費等		—千円	—千円	—	—	—	—	
	図書購入費	—千円	500千円	—千円	—	—	—	—	
設備購入費	5,702千円	4,297千円	—千円	—	—	—	—		
学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	保険料等その他の諸経費は含まない		
	895千円	719千円	—千円	—千円	—千円	—千円	—千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入 等							
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	九州共立大学							
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地
	経済学部	年	人	年次 人	人		倍		
	経済・経営学科	4	400	—	1600	学士(経済学)	0.77	平成21 年度	福岡県北九州市八幡西区自由ヶ丘1番 8号
スポーツ学部						1.20			
スポーツ学科	4	250	—	1000	学士(スポーツ学)	1.20	平成18 年度		

既設大学等の状況	大学の名称	九州女子大学							福岡県北九州市八幡西区自由ヶ丘1番1号	人間科学部人間発達学科は、専攻ごとに教職課程が異なる	
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度			所在地
	家政学部	年	人	年次人	人		倍				
	人間生活学科	4	40	—	160	学士(家政学)	0.86	平成13年度			
	栄養学科	4	90	—	360	学士(家政学)	1.03	平成13年度			
	人間科学部										
人間発達学科	4	130	—	520	学士(文学)	0.96	平成22年度				
人間発達学専攻	4	60	40	320	学士(文学)	0.93	平成22年度				
既設大学等の状況	大学の名称	九州女子短期大学							福岡県北九州市八幡西区自由ヶ丘1番1号		
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度			所在地
子ども健康学科	2	150	—	300	短期大学士(教育学)	1.07	平成23年度				
附属施設の概要	<p>体育館：体育の授業および課外活動、福原学園鶴鳴記念館、福岡県北九州市八幡西区自由ヶ丘1番8号、昭和60年10月、7,281.07㎡</p> <p>体育館：体育の授業および課外活動、第2体育館(ダンス室含む)、福岡県北九州市八幡西区自由ヶ丘1番8号、昭和38年10月(昭和58年3月増設)、2,281.19㎡</p> <p>体育館：体育の授業および課外活動、耕技館(体操競技場等含む)、福岡県北九州市八幡西区自由ヶ丘1番8号、平成7年3月、4,212.98㎡</p> <p>体育館：体育の授業および課外活動、光武館、福岡県北九州市八幡西区自由ヶ丘1番8号、平成6年2月、551.61㎡</p> <p>体育館：体育の授業および課外活動、福原学園屋内公認温水プール棟、福岡県北九州市八幡西区自由ヶ丘1番8号、平成24年3月、1,644.17㎡</p>										

教育課程等の概要														
(スポーツ学研究科スポーツ学専攻)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎科目	スポーツ学研究概論	1前	2			○			6	3				
	小計（1科目）	—	2	0	0	—			6	3	0	0	0	—
共通科目	スポーツ科学特論	1前		2		○			1					兼1 集中
	スポーツ運動・方法学特論	1前		2		○				1				
	スポーツ心理学特論	1前		2		○				1				
	スポーツマネジメント特論	1後		2		○					1			
	スポーツ科学分析特論	1後		2		○						1		
	スポーツ社会学特論	1後		2		○				1				
	トレーニング科学特論	2前		2		○			1					
	地域スポーツマネジメント演習	2前		1			○				1			
小計（8科目）	—	0	15	0	—			2	3	1	0	0	兼1	
専攻科目	保健体育科教育法特論	1前		2		○			1	1				兼1 オムニバス・共同(一部)
	保健体育科教育法現場演習	1後		1			○				1			
	健康教育学特論	1前		2		○			1					
	発達教育心理学特論	1後		2		○			1					
	武道学特論	2前		2		○								
	コーチング特論	1前		2		○				1				
	コーチング現場演習	1後		1			○				2			
	スポーツ栄養学特論	2前		2		○			1					
	ストレンクス&コンディショニング演習	2後		1			○		1					
	健康・長寿特論	1前		2		○				1				
	ヘルスプロモーション現場演習	1後		1			○		1					
	体力科学特論	1後		2		○			1					
	健康・体力支援演習	2後		1			○		1	1				
	アスレティックトレーニング特論	1前		2		○					1			
	アスレティックトレーニング現場演習	1後		1			○		1		2			
	スポーツ医学特論	1前		2		○			1					
機能解剖学特論	2前		2		○			1						
アスレティックリハビリテーション演習	2前		1			○				1				
小計（18科目）	—	0	29	0	—			7	3	5	0	0	兼1	
修了研究科目	修了研究Ⅰ	1通	4			○			6	3				
	修了研究Ⅱ	2通	4			○			6	3				
	小計（2科目）	—	8	0	0	—			6	3	0	0	0	—
合計（29科目）		—	10	44	0	—			7	5	6	0	0	兼2
学位又は称号	修士（スポーツ学）		学位又は学科の分野				体育関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
必修科目10単位、共通科目の選択科目から10単位以上、専攻科目の選択科目から10単位以上を修得し、かつ、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。							1学年の学期区分			2期				
							1学期の授業期間			15週				
							1時限の授業時間			90分				

教育課程等の概要																
(スポーツ学部スポーツ学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
総合科目	領域基礎	福原学	1前	1				○	9	1	5	1		一部共同		
	教養教育科目	基礎領域	ステップアップ講座A	1前又は後		1			○						兼1	
		ステップアップ講座B	1前又は後		1			○	1		1					
		文化・芸術領域	文学の世界	1前又は後		2		○		1		1				兼1
			ことばの世界	1前又は後		2		○			1	1				兼2
		歴史・社会領域	芸術の世界	1前又は後		2		○					1			兼1
			日本人論	1前又は後		2		○						1		兼1
			情報文化論	1前又は後		2		○								兼1
			歴史を考える	1前又は後		2		○								兼1
			法と生活	1前又は後		2		○								兼1
			現代国家と法(日本国憲法)	1前又は後		2		○								兼1
		人間・環境領域	政治と国際問題	1前又は後		2		○								兼1
			暮らしと経済	1前又は後		2		○								兼1
	人権・同和教育		1前又は後		2		○					1			兼1	
	人間と哲学		1前又は後		2		○								兼1	
	科学を考える		1前又は後		2		○		1	1					兼1	
	宇宙の科学		1前又は後		2		○				1				兼1	
	言語・異文化理解科目	日本語	生命と環境	1前又は後		2		○							兼1	
			心の科学	1前又は後		2		○							兼1	
		日本語	日本語表現法Ⅰ	1前又は後	1				○				1			外国人留学生は選択
			日本語表現法Ⅱ	1前又は後	1				○				1			外国人留学生は選択
		英語	英語Ⅰ	1前					○	1	2	2				兼1
			英語Ⅱ	1後	1				○	1	2	2				兼1
			英語Ⅲ	2前		1			○			1				兼1
			英語Ⅳ	2後		1			○			1				兼1
			英語コミュニケーションⅠ	2前		1			○	1	2	2				兼1
			英語コミュニケーションⅡ	2後		1			○	1	2	2				兼1
	ドイツ語	ドイツ語Ⅰ	1前		1			○	1						兼1	
		ドイツ語Ⅱ	1後		1			○	1						兼1	
		フランス語Ⅰ	1前		1			○							兼2	
		フランス語Ⅱ	1後		1			○							兼2	
	中国語	中国語Ⅰ	1前		1			○	1						兼2	
		中国語Ⅱ	1後		1			○	1						兼2	
	韓国語	韓国語Ⅰ	1前		1			○							兼2	
		韓国語Ⅱ	1後		1			○							兼2	
	文化理解	異文化を考える	1前又は後		2		○		1						兼1	
	情報教育	海外研修	—		2							1				
		情報教育	情報処理演習Ⅰ	1前	1				○	1	1	1				兼1
			情報処理演習Ⅱ	1後	1				○	1	1	1				兼1
			情報処理演習Ⅲ	2前		1			○							兼1
	情報処理演習Ⅳ		2後		1			○							兼1	
	キャリア教育科目	インキャリアデザイン	職業とコミュニケーション	1後					○	9	1	5	1		一部共同	
			キャリアデザインⅠ	2通					○	3	2	1			一部共同	
			キャリアデザインⅡ	3前						○	3	2	2			一部共同
			キャリアデザインⅢ	3後						○	3	2	2			一部共同
キャリア教育発展領域		スキルアップ講座A	3後		1			○	1							
		スキルアップ講座B	3前		1			○		1	1					
		スキルアップ講座C	3後		1			○		1	1					
		スキルアップ講座D	3前		1			○	1		1					
		スキルアップ講座E	3後		1			○			1					
		スキルアップ講座F	3前		1			○	1							
		スキルアップ講座G	3前		1			○			1				兼1	
		スキルアップ講座H	3後		1			○			1				兼1	
		スキルアップ講座I	3前		1			○		1					兼2	
		スキルアップ講座J	3後		1			○	1							
スキルアップ講座K	3前		1			○		1								
スキルアップ講座L	3後		1			○		1								
小計(57科目)		—					—	16	8	12	1	0	兼36	—		

留 学 生 特 別 科 目	初級日本語ⅠA	1前	2	○		1				兼1	
	初級日本語ⅠB	1前	2	○		1				兼1	
	初級日本語ⅠC	1前	2	○						兼1	
	初級日本語ⅠD	1前	2	○						兼1	
	初級日本語ⅠE	1前	2	○						兼1	
	初級日本語ⅡA	1前	2	○						兼1	
	初級日本語ⅡB	1前	2	○				1		兼1	
	初級日本語ⅡC	1前	2	○						兼1	
	初級日本語ⅡD	1前	2	○						兼1	
	初級日本語ⅡE	1前	2	○						兼1	
	中級日本語Ⅰ	1前	1	○				1		兼2	外国人留学生選択必修
	中級日本語Ⅱ	1後	1	○				1		兼2	外国人留学生選択必修
	上級日本語Ⅰ	2前	1	○				1		兼2	外国人留学生選択必修
	上級日本語Ⅱ	2後	1	○				1		兼2	外国人留学生選択必修
	日本文化研修	—	2		○		1	1		兼1	外国人留学生選択必修
	スキルアップ講座N	3前	1		○					兼2	
	スキルアップ講座O	3後	1		○					兼2	
	スキルアップ講座P	3前	1		○					兼1	
	スキルアップ講座Q	3後	1		○					兼1	
小計(19科目)	—			—		1	1	1		兼7	—
専 門 科 目	解剖生理学	1前	2	○			1				
	衛生学及び公衆衛生学	1前	2	○		1					
	スポーツ運動学(運動方法学を含む。)	1前	2	○			1				
	スポーツ指導論	1前	2	○		1					
	スポーツ生理学	1後	2	○		1					
	スポーツバイオメカニクス	1後	2	○		1					
	スポーツ社会学	1後	2	○				1			
	スポーツ心理学	1後	2	○				1			
	スポーツ医学	2前	2	○		1					
	スポーツ栄養学	2後	2	○		1					
	体力トレーニング論	3前	2	○		1					
	発育発達老化論	3後	2	○							兼1
	スポーツの歴史と文化	4前	2	○							兼1
	スポーツ統計学	3前	2	○		1					
	レクリエーション論	4前	2	○					1		
	トレーニング実習	1前又は後	1		○						兼2
	体力測定評価法実習	1前又は後	1		○	2	1				
	救急法実習	2前又は後	1		○			1			兼6
	テーピング実習	3後	1		○						兼1
	運動生理学実験	3前	1		○		1				
スポーツ運動解析法	3前	1		○	1						
スポーツクラブのマネジメント	3後	2		○						兼1	
専 門 科 目	スポーツ学概論	1後	2	○		1					
	コーチング各論A	2前	2	○			1	3			
	コーチング各論B	2後	2	○		2		1			
	コーチング実習	3前	1		○	1	1				兼1
	コーチングシステム論	2後	2	○				1			
	トレーニング計画論	2前	2	○		1					
	スポーツ戦術論	4前	2	○				1			
	スポーツ方法論	3前	2	○		1	1				
	レジスタンストレーニング実習	2前	1		○	1					
	メンタルトレーニング演習	2後	2		○			1			
	スポーツパフォーマンス測定実習	3前	1		○	1					
	スポーツゲーム分析演習	3後	2		○			1			
	スポーツ栄養指導演習	4前	2		○						兼1
	地域スポーツ論	3前	2		○			1			
	障害者とスポーツ	3後	2		○						兼1
専 門 科 目	スポーツ教育概論	1後	2	○		1					
	学校体育のマネジメント	3前	2	○			1				
	学校体育指導演習	3前	2		○						兼1
	器械運動指導法(体づくり運動を含む。)	2前	1		○			1			
	陸上競技指導法	2後	1		○			2			
	水泳指導法	3前	1		○			1			
	球技指導法A	2後	1		○		1				
	球技指導法B	3後	1		○			1			兼2
	ダンス指導法	3前	1		○		1				
	武道指導法	3後	1		○						兼1
	学校保健Ⅰ(学校安全を含む。)	3前	2		○	1					
	学校保健Ⅱ(小児保健・精神保健を含む。)	3後	2		○				1		兼1
	学校保健指導演習	3後	2		○			1			
	社会体育論	2前	2		○			1			
	ジュニアスポーツ論	3前	2		○						兼1
ジュニアスポーツ指導演習	3後	2		○				1		兼1	

専門科	スポーツトレーナーコース	アスレティックトレーナー概論	1後	2	○	○	○	○	1	1										
		機能解剖学Ⅰ	2前	2	○	○	○	○	1											
		機能解剖学Ⅱ	2後	2	○	○	○	○	1											
		スポーツ傷害論Ⅰ	2前	2	○	○	○	○										兼4		
		スポーツ傷害論Ⅱ	2後	2	○	○	○	○										兼5		
		コンディショニング論	2前	2	○	○	○	○		1										
		コンディショニング演習	2後	2	○	○	○	○		1										
		身体機能評価法	2後	2	○	○	○	○											兼1	
		スポーツ傷害評価法	3前	2	○	○	○	○			1									
		リハビリテーション論	3前	2	○	○	○	○						1						
		アスレティックリハビリテーション論	3後	2	○	○	○	○						1						
		アスレティックリハビリテーション演習	4前	2	○	○	○	○							1					
		スポーツ内科学	3後	2	○	○	○	○											兼1	
		アスレティックテーピング	3前	1	○	○	○	○				1								
		アスレティックトレーニング現場実習Ⅰ	3又は4集中	1	○	○	○	○		1	1									
		アスレティックトレーニング現場実習Ⅱ	3又は4集中	1	○	○	○	○		1	1									
		アスレティックトレーニング現場実習Ⅲ	3又は4集中	1	○	○	○	○				1		1						
アスレティックトレーニング現場実習Ⅳ	3又は4集中	1	○	○	○	○			1			1					兼1			
アスレティックトレーニング現場実習Ⅴ	3又は4集中	1	○	○	○	○		1				1					兼1			
アスレティックトレーニング現場実習Ⅵ	3又は4集中	1	○	○	○	○		1				1					兼1			
専門科	健康コース	健康フィットネス概論	1後	2	○	○	○	○	1											
		健康づくり運動理論	2前	2	○	○	○	○			1									
		健康づくり運動実技	2後	1	○	○	○	○				1								
		運動器の構造と機能	2前	2	○	○	○	○		1									兼1	
		健康医科学論	2前	2	○	○	○	○												
		スポーツカウンセリング論	3前	2	○	○	○	○				1								
		運動生理学	2後	2	○	○	○	○			1									
		生活習慣病概論	3前	2	○	○	○	○												
		運動負荷試験	3前	2	○	○	○	○					2						兼1	
		運動プログラムの管理	3後	2	○	○	○	○					1							
		介護と福祉のフィットネスプログラム	3後	2	○	○	○	○		1						1			兼1	
		健康栄養指導演習	3後	2	○	○	○	○		1										
		アクアエクササイズ	2後	1	○	○	○	○											兼1	
		エアロビックエクササイズ	3前	1	○	○	○	○											兼1	
		健康産業施設実習	3又は4集中	2	○	○	○	○						1						
		専門科	スポーツゼミナール	卒業研究	3通	4	○	○	○	○	14	8	8							
				卒業研究	4通	8	○	○	○	○	13	7	7							
体操(体づくり運動を含む。)	1前又は後			1	○	○	○	○					1						兼2	
器械運動	2前又は後			1	○	○	○	○				1	1							
陸上競技A	1前又は後			1	○	○	○	○					1						兼1	
陸上競技B	2前又は後			1	○	○	○	○					1						兼1	
水泳	2前又は後			1	○	○	○	○			1		1							
バスケットボール	1前又は後			1	○	○	○	○				1								
バレーボール	2前又は後			1	○	○	○	○												兼2
サッカー	1前又は後			1	○	○	○	○						1					兼1	
ハンドボール	3前			1	○	○	○	○											兼1	
ラグビー	3前			1	○	○	○	○											兼1	
ソフトボール・野球	3後			1	○	○	○	○			1									
テニス	3前又は後			1	○	○	○	○												兼1
バドミントン	2前又は後			1	○	○	○	○												兼1
ダンス	2前又は後			1	○	○	○	○												兼1
剣道	2前又は後			1	○	○	○	○			1									
柔道	2前又は後	1	○	○	○	○												兼1		
レクリエーション実技	3後	1	○	○	○	○							1							
エアロビックダンス	2前又は後	1	○	○	○	○												兼1		
キャンプ	集中	1	○	○	○	○					1	1	1							
マリンスポーツ	集中	1	○	○	○	○			1		1									
スノースポーツ	集中	1	○	○	○	○			2		1									
小計 (111科目)			—		—	—	—	14	8	9	1	0				兼36	—			
自由選択科目	社会教育主事関連科目	生涯学習と社会教育	3前	2	○	○	○			1										
		生涯学習・社会教育の指導者	3前	2	○	○	○												兼1	
		社会教育計画の立案	3後	2	○	○	○												兼1	
		社会教育施設の経営	3後	2	○	○	○												兼1	
		社会教育演習	4前	2	○	○	○					1								
		社会教育実習	3又は4集中	2	○	○	○						1							
		インターンシップ(企業研修)	2前	2	○	○	○			1										

自由選択科目	教職課程関連科目	教職論	1前	2	○					1								
		教育原論	1後	2	○					1								
		教育心理学	2前	2	○					1								
		教育制度論	2前	2	○											兼1		
		教育史	3後	2	○											兼1		
		教職総合講義	3前又は後	2	○											兼1		
		教育課程論	2後	2	○					1								
		道徳教育指導法	3後	2	○											兼1		
		教育方法論	3後	2	○					1								
		生徒・進路指導論	3前	2	○											兼1		
		教育相談	2後	2	○											兼1		
		教職発展ゼミナール	3前又は後	2			○				1							
		小計(19科目)	—				—			1	1	3	0	0		兼7		—
		自由科目	教職に関する専門教育科目	保健体育科教育法Ⅰ	2前	2	○				1		1					
保健体育科教育法Ⅱ	2後			2	○						2							
保健体育科教育法Ⅲ	3前			2	○						2							
保健体育科教育法Ⅳ	3後			2	○				1		1							
教育実習Ⅰ	4前			2			○		1		3							
教育実習Ⅱ	4前			2			○		1		3							
事前事後指導	4通			1	○						3							
教職実践演習(中・高)	4後			2			○		1		5							
小計(8科目)	—				—		2	0	5	0	0		兼0		オムニバス オムニバス			
合計(214科目)		—				—		22	13	19	1	0		兼85		—		
学位又は称号		学士(スポーツ学)			学位又は学科の分野			体育関係										
卒業要件及び履修方法							授業期間等											
総合共通科目30単位以上、専門教育科目76単位以上、自由選択科目18単位以上の合計124単位以上を修得すること。 なお、自由選択科目には、自学部で履修した卒業要件対数を超える科目及び他学部で履修した科目を含む。							1学年の学期区分			2学期								
							1学期の授業期間			15週								
							1時限の授業時間			90分								

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ学研究科スポーツ学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	スポーツ学研究概論	<p>スポーツ学に関する研究論文の種類や構成などを理解するとともに、研究倫理について学ぶ。研究に必要な文献検索、実験、調査、データ処理の手法を修得し、各自の研究テーマに展開させることのできる能力を養う。また、研究レポートおよび論文作成、発表方法の基盤を作りあげる。各研究指導教員の専門分野に応じた内容を盛り込みながら教授する。</p> <p>(1 照屋 博行) 健康教育</p> <p>(2 船津 京太郎) 体力学、発育発達学、陸上競技学</p> <p>(3 得居 雅人) スポーツ生理学、スポーツバイオメカニクス、ランニング学</p> <p>(4 樋口 行人) スポーツ栄養学、健康支援</p> <p>(5 長谷川 伸) トレーニング科学、バイオメカニクス</p> <p>(6 篠原 純司) 運動科学、スポーツ医学</p> <p>(8 八板 昭仁) スポーツ方法学、コーチング、球技戦術</p> <p>(2) 鄭 英美) 器械体操、ダンス、学校体育教育</p> <p>(3) 大下 和茂) 体力科学、健康科学、生理人類学</p>	
	スポーツ科学特論	人は、食物から得た生理的エネルギーによって筋収縮を起こし、身体運動の力学的エネルギーに変換している。それに関わる身体諸器官の滑らかな調節と連携により、スポーツ運動は遂行される。本講義では、力学・生理学・解剖学等の基礎諸科学の知識の上に、スポーツ生理・バイオメカニクスの法則を学び、スポーツ運動のメカニズムを総合的に理解する。	
	スポーツ運動・方法学特論	スポーツ実践における運動観察力（自己観察、他者観察）、運動共感力の重要性を認識し、生徒や選手が動き方を身に付けるために役立つ知識について学習位相、運動質を中心に検討する。さらに、スポーツにおける技術が“理想的な運動”であることを理解し、多くのスポーツ種目において基本原則に叶った正しい運動によって成果が上がることを学習する。運動・スポーツにおいて指導者が運動観察力を身に付けることの重要性を理解し、運動の仕方を指導する指導実践の方法を学習する。	
	スポーツ心理学特論	<p>スポーツ心理学は、スポーツ・運動行動に関わるあらゆる心理学的要因を扱う応用学問であり、スポーツの実践ならびに指導に科学的基礎を与えることを目的としています。</p> <p>本講義では大きく以下の8つの領域を設定し、受講者のスポーツ実践や指導に活かせるよう学習を進めていきます。1. スポーツ運動の発達、2. スポーツ技能の学習、3. スポーツの動機づけ、4. スポーツの社会心理、5. 競技の実践心理、6. スポーツメンタルトレーニング、7. 健康スポーツの心理、8. スポーツ臨床。これらの内容について、最新の知見や実践例などを紹介しながら、理解を深めていくことを目指します。</p>	
	スポーツマネジメント特論	スポーツ、フィットネスおよびレジャー・レクリエーションの分野に関して、1. 組織の経営に必要な資源である「ヒト」「モノ」「カネ」を学ぶ。2. 「モノ」施設の管理・運営に関する基本的な知識・方法を身につける。3. 「ヒト」「カネ」イベントやプログラムの開発・企画・運営に関し、基本的な考え方を習得する。4. 課題・レポートの効果的な書き方およびプレゼンテーションの技法を身につける。	
	スポーツ科学分析特論	競技パフォーマンスの向上を目指した体力・運動能力に関する基礎的および先端的な科学研究の方法を理解し、修得する。	
共通科目	スポーツ社会学特論	本講義では、現代スポーツに関わる多様なトピックの事象と私たちが暮らす社会との関係性について批判的に検討することにより、現代的ニーズである生涯スポーツ・地域スポーツ等の充実や未来志向的なスポーツの発展に資する学問的基盤を構築する。	

共通科目	トレーニング科学特論	トレーニング科学に関する国内外の文献から、運動のメカニズム、トレーニングの効果（形態的、機能的、生理的変化等）についての知識を獲得する。トレーニング方法の歴史の変遷や問題点に関する理解を深める。	
	地域スポーツマネジメント演習	現在のスポーツ行政は、スポーツ立国戦略及びスポーツ基本法に基づいて実施されている。その理念として、人（観る人、する人、支える人）の重視と連携・協働、生涯スポーツや地域スポーツの重要性が掲げられており、政府や地方自治体によるスポーツ行政の役割が大きなものとなっている。そこで本演習は、地域スポーツの充実の観点から現在の市町村におけるスポーツ事情の改善を目指し、地域スポーツの中心として期待されている総合型地域スポーツクラブの事業計画を策定することを通じて、地域スポーツマネジメントの資質・能力を身に着ける。	
専攻科目	保健体育科教育法特論	<p>(概要)</p> <p>知識基盤社会である21世紀を迎え、我が国の学校教育は大きな転換を余儀なくされ、個々の教員にも高度専門職業人としての資質が求められている。本科目では、今日的課題である、子供の体力低下、生活習慣病の低年齢化、運動離れ、身体と心の乖離などスポーツ・健康に関する諸問題に対して合理的かつ、科学的対応のできる高い資質を備えた教員(現職教員の再教育を含む)や社会人の養成を目指す。主な内容としては、実際学校体育や保健領域の授業から得られた情報を基に授業分析を行い、よりよい授業づくりの工夫・改善のための実践的教育方法・技術、評価方法、教材の開発に取り組む。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(1 照屋 博行/6回) 保健体育科教育特論における保健領域</p> <p>(2) 鄭 英美/8回) 保健体育科教育特論における体育科領域</p> <p>(1 照屋 博行 ② 鄭 英美/1回) (共同) 児童生徒の発達、教材の意味・目的、教員の役割 「良い体育の授業」とは</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	保健体育科教育法現場演習	本科目は、学校における保健体育の授業を実施する上で、必要とされる技能の獲得や資質の向上を目指して演習形式で授業を展開していく。中学校及び高等学校の教科としての保健体育の構造と内容を確認しながら、受講学生が、実際に年間指導計画や学習指導案を作成し、模擬授業等を実施をする。	
	健康教育学特論	本講義を通して、健康教育の歴史とその社会的背景について理解が深められる講義を行う。また、健康を科学的に理解するためには疫学的健康観に基づいた内容が必須である。その具体的内容について教授すると共に、WHO（世界保健機関）の国際的な健康戦略からみた健康教育、そして、学校、地域、事業場等での健康教育とその現代的課題についての講義を行う。現在、健康教育の領域では、ヘルスプロモーションの理念に基づいた健康教育が展開されている。このヘルスプロモーションの根拠から、これからの健康教育はどうあるべきかについて、この講義担当者が提唱している「健康力」の育成について講義を行う。	
	発達教育心理学特論	教育実践において、子どもたちの心理を捉えることは非常に重要である。対象となる児童・生徒を十分に理解し、その特性に合わせて授業や児童・生徒指導を工夫する必要がある。本講義では教育実践のために必要な、記憶・学習に関する知識、児童・生徒の発達段階に関する知識、特別支援に関する知識、および、個人や集団の特性を把握するための調査方法に関する知識を習得し、児童・生徒の特性に合わせた授業・指導を行えるようになることを目的とする。	
	武道学特論	武道学の特性の一つは「わざ」についての捉え方にある。それは単に、技術の名称や打突、投げ、蹴りなどの運動の主要局面のみを意味するものではなく、準備局面での「合気」「攻め」「崩し」、終末局面での「きめ」「残心」なども含んだ一連の身体的・精神的技術を意味する。さらに、その背後には、武道特有の哲学、観念、思想が存在する。授業では、「わざ」の概念及び「わざ」の構成要素等について、上記に述べたような様々な側面から取り上げた文献を手掛かりに講義を行う。	
コーチング特論	<p>コーチング学が様々な知識を必要とする学際的な分野であることを理解した上で、各運動種目の特性を踏まえて、コーチの役割とコーチングマネジメント、指導行動、運動技術や戦術に関する知識を身に着け、コーチングにおける心得やチーム管理の方法について学習する。</p> <p>さらに、コーチングが単に「競技スポーツを教える」ということを意味しているだけでなく、それを中心とした多重な働きを示すことを理解するために、我が国のコーチングにおける様々な問題点に着目し、受講生相互の意見交換を含めて議論を展開する。</p>		

専攻科目	コーチング現場演習	<p>(概要) コーチングスキルを向上するためには、専門的知識・理論を学習し、それを実践することである。本授業では、チーム競技のコーチング及び個人競技のコーチングについて、これまでに学習した専門的能力をコーチング現場にて実践し、各種目のスポーツコーチングに応用する能力を身に付ける。</p> <p>さらに、各種目におけるコーチングの実際を学び、年代別の指導法やスキル水準別の指導法を学習し、科学的な知見からコーチング現場に活かすコーチング法を学ぶことを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(⑤ 川面 剛/6回) 各スポーツにおける本質的特徴 (各スポーツの概念・種目特性, 各スポーツの体系化・競争目的・社会的機能) 各スポーツにおける競技力構造 (各スポーツにおける競技力及び競技力構造, 技術的・戦術的理解, 競技力の前提条件)</p> <p>(18 森 誠護/6回) トレーニングプログラムデザイン (マクロ (年間) サイクル・メゾ (月間) サイクル・ミクロ (週間) サイクル) 科学的データに基づいたトレーニングの実践 (専門種目のトレーニング方法の分析) トレーニングの評価 (データ収集とデータ分析)</p> <p>(⑤ 川面 剛 18 森 誠護/3回) (共同) ガイダンス コーチング現場での実習 (指導法の学習)</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	スポーツ栄養学特論	前半は栄養素の働きを生化学的に学び、またスポーツに係わる各種の栄養ガイドラインについて理解を深める。さらにこれらの知識を栄養指導に活かす方法を検討する。栄養の専門家を目指すわけではないが、スポーツ現場で簡単な栄養指導が適切にでき、栄養士と連携する際に不都合のない知識、技術を有することを目的とする。	
	ストレングス&コンディショニング演習	レジスタンストレーニングにおけるプログラムの作成、遂行、評価の一連の過程について測定、トレーニングを実際に経験しながら学ぶ。	
	健康・長寿特論	現代に生きる私たち自身の人間特性を、体力科学、生理人類学的な観点から理解し、健康をどのように捉えるのかを考える。そして、生活の質の向上を通して健康長寿の延伸へ貢献する知識を身に付ける (1~8週目)。また、地域社会における健康問題に対して、これらの知識を基盤とし、その理解を応用させることで、健康・長寿の施策に繋げ (9~13週目)、望ましい健康を作り出すにはどうすべきかを各自が考えること (14・15週目) を本特論のテーマとする。	
	ヘルスプロモーション現場演習	民間スポーツクラブや公設体育施設などでの現場演習を通じて、運営上生じる問題点を見つけ出し、具体的な改善策を考案をして、その解決に寄与することを授業目標とする。現場演習は単なる見学とならぬよう、事前打ち合わせを綿密に行い、「できること」を準備しておく。	
	体力科学特論	身体活動や体育・スポーツに関連する体力要素は多岐にわたる。本講義ではまず、種々の体力要素と健康やスポーツパフォーマンスとの関係について学びます。また、体力の向上のための理論・手法を身につけ、エビデンスに基づいた運動処方プログラムの立案し、その評価や効果判定ができる実践能力を養う。	
	健康・体力支援演習	<p>(概要) 現代に生きる私たち自身の人間特性を体力科学的な側面から測定・評価し、それらを向上させる方法について理解を深める。そして、これらの知識を基盤とし、その理解を応用させることで、地域社会や日常生活における健康支援の方策について検討する。さらに、今後の望ましい健康支援のあり方について、各自が考えることを本演習のテーマとする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(3 得居 雅人/6回) 体力・運動機能の測定と評価 (呼吸・循環機能, 脳・神経機能, 生体動作) 運動プログラムの作成 (有酸素運動) 地域社会における健康支援</p> <p>(③ 大下 和茂/7回) 健康支援の現状 体力・運動機能の測定と評価 (筋機能) 運動プログラムの作成 (無酸素運動, レジスタンス運動) 健康増進施設における健康支援 社会環境の変化と健康支援 健康支援のための方策</p> <p>(3 得居 雅人 ③ 大下 和茂/2回) (共同) オリエンテーション, 総合討論.</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

	<p>アスレティックトレーニング特論</p>	<p>・アスレティックトレーニング領域の中から傷害予防、アスレティックリハビリテーション、コンディショニング、測定評価に関する研究方法を、過去の研究論文から学ぶ。 ・研究方法や知見をアスレティックトレーニング現場へ活用する方法について討議する。</p>	
<p>専攻科目</p>	<p>アスレティックトレーニング現場演習</p>	<p>(概要) リコンディショニングルーム (アスレティックトレーニング演習室) や学内スポーツ施設にてアスレティックトレーナーとして必要な知識と技術を実践的に学ぶ。具体的には、一次救命処置、頭頸部外傷評価、緊急対応計画作成法などスポーツ活動中に発生しうる生命に関わる事故・怪我への対応を始め、様々なスポーツ傷害に対する評価法や救急処置についての理解を深める。また、アスレティックトレーナーが使用する物品の管理やアスレティックトレーニングルームの運営方法についても学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(6 篠原 純司/5回) 一次救命処置 (観察、気道確保、人工呼吸、循環確認、感染防止)、頭頸部外傷評価と搬送 (頭頸部の解剖と頭頸部外傷について、現場で実施する処置、頭頸部外傷に伴う異常、評価と処置、注意すべき損傷と対応)、緊急対応計画 (スポーツ活動中に起こりうる生命に関わる事故の実態、緊急対応計画とは、緊急対応計画の作成法及び組織への導入について)</p> <p>(6 栗谷 健礼/5回) 下肢の傷害評価 (足部・足関節・下腿部の傷害評価、膝関節・股関節・大腿部の傷害評価)、上肢の傷害評価 (肩・肩甲帯・上腕部の傷害評価、肘・手関節・指・前腕部の傷害評価)、総合評価演習 (スポーツ現場での怪我を想定し、傷害評価の知識と技術の確認を行う)</p> <p>(16 辰見 康剛/5回) フィールド上での傷害評価と管理 (フィールド上での傷害評価の概要と手順、フィールド上での傷害評価の実際と搬送法)、アスレティックトレーニングルームの管理運営 (評価・測定結果の記録の作成と管理、医科学スタッフとの連携、医療関係法規、予算・物品管理と年間運営計画)</p>	<p>オムニバス方式</p>
	<p>スポーツ医学特論</p>	<p>本講義では、スポーツ現場において見られる様々な外傷、障害、内科的疾患の概要を理解し、それらに対する評価、リハビリ、リハビリテーション、再発予防などについての見識を深める。また、スポーツに関連する怪我や病気の理解する上で必要不可欠な解剖学的知識についても学ぶと共に、症例についての文献抄読・討論を行う。</p>	
	<p>機能解剖学特論</p>	<p>本講義では、人体の骨、筋肉、関節、靭帯、神経の構造を機能と関連付けて学ぶと共にスポーツ障害・外傷に伴う身体構造の変化や機能障害についても理解を深める。</p>	
	<p>アスレティックリハビリテーション演習</p>	<p>・各種外傷や障害、また競技特性を踏まえたうえでアスレティックリハビリテーションプログラムを作成し、指導する力を養う。 ・実際の指導場面を想定し、様々な状況におけるシミュレーションを実施する。 ・その他、各テーマに沿った議論も積極的に実施する。</p>	

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">修了研究科目</p>	<p>修了研究 I</p>	<p>(概要) 修士論文の作成に向けて、自らの研究テーマについての研究動向を理解するとともに、研究に必要な知識・技能を身につけ、研究計画を立案する。</p> <p>(1 照屋 博行) 「健康教育学」(学校、地域、産業現場等)での先行研究がどのような方法によって進められてきたのかについて理解する。また、自らの研究課題について、先行研究の動向を明確にする。健康教育学の研究を進めるに当たって、疫学的な研究技法を修得することが必要である。従って、疫学的な解析の方法や統計学の応用を理解する。</p> <p>(2 船津 京太郎) 「体力学」、「発育と運動」についてどのような先行研究がどのような方法ですすめられてきたかについて理解する。さらに、自らの研究テーマについての研究動向を理解し、先行研究を精査する。また、研究に必要な分析ソフトウェアおよび統計・数値処理のソフトウェアの運用を理解する。</p> <p>(3 得居 雅人) スポーツ生理学やスポーツバイオメカニクスについてどのような先行研究がどのような方法で進められてきたかについて理解する。さらに、自らの研究テーマについての研究動向を理解し、先行研究を精査する。また、研究に必要な分析ソフトウェアおよび統計・数値処理のソフトウェアの運用を理解する。</p> <p>(4 樋口 行人) スポーツ学研究概論を受け、自らの研究テーマをより深く掘り下げ、設定課題を明確にする。設定した課題を解決する方法・技術を模索し、身につける。必要に応じて予備実験・調査を実施する。</p> <p>(5 長谷川 伸) トレーニング科学に関する修士論文作成にあたり、研究テーマに関する情報収集、英文文の読解、研究計画の立案を行なう。</p> <p>(6 篠原 純司) 本授業では、スポーツで発生する様々な怪我と発症のメカニズム、怪我の予防、競技復帰のためのアスレティックリハビリテーション、スポーツ事故の防止と緊急対応など、アスレティックトレーニングやスポーツ医科学領域における研究を通して、受講者の専門性を高めることを目的とする。</p> <p>(8 八板 昭仁) 「スポーツ方法学」、「コーチング学」について、これまでどのような研究が行われてきたかを学習し、実戦の場で生かされ成果がもたらされることが重要であることを理解する。球技のゲーム分析、スポーツ選手の体力測定や意識調査などに関するスポーツの現象についてデータ収集からデータ解析方法までを自らデザインし修士論文を作成する。</p> <p>(2) 鄭 英美) 「スポーツ教育学」、「学校体育・教科教育」の研究分野及び研究・論文作成方法についての基本知識を理解する。さらに、自らの研究テーマについての先行研究を精査し、研究動向を把握する。また、研究に必要な分析ソフトウェアおよび統計・数値処理のソフトウェアの運用を理解する。</p> <p>(3) 大下 和茂) 現在、ヒトの生活や健康について、どのようなことが分かっている、どのようなことが分かっていない、もしくは問題になっているのかを、体力科学および生理人類学的な視点から明らかにする。また、それらを解決することにより、健康維持・増進や実生活にどのような意義があるかについて、先行研究と共に、自身が行ってきた研究・調査活動とも照らし合わせて探求を行う。</p>	
---	---------------	--	--

修了研究科目	修了研究Ⅱ	<p>(概要) 最終的な研究計画を立案し、修士論文を作成する。</p> <p>(1 照屋 博行) 自身の研究課題についてどのような先行研究がどのような方法で進められて来たのかについて理解する。さらに、自らの研究課題についての研究動向を理解し、先行研究を精査する。また、収集したデータを分析することに必要な統計・数値処理運用を理解する。更に研究会や学会発表を通して、資料作成、研究目的、方法、結果、考察、結論等のプレゼンテーションのスキルを修得する。</p> <p>(2 船津 京太郎) 自身の研究テーマについてどのような先行研究がどのような方法ですすめられてきたかについて理解する。さらに、自らの研究テーマについての研究動向を理解し、先行研究を精査する。また、研究に必要な分析ソフトウェアおよび統計・数値処理のソフトウェアの運用を理解する。また、仮説を客観的なデータや根拠を基に主張できる能力を養う。</p> <p>(3 得居 雅人) 自身の研究テーマについてどのような先行研究がどのような方法ですすめられてきたかについて理解する。さらに、自らの研究テーマについての研究動向を理解し、先行研究を精査する。また、研究に必要な分析ソフトウェアおよび統計・数値処理のソフトウェアの運用を理解する。また、仮説を客観的なデータや根拠を基に主張できる能力を養う。</p> <p>(4 樋口 行人) 修了研究Ⅰの計画案を元に最終的な研究計画を立案する。計画に基づき実験・調査等を行い、修士論文に仕上げていく。また、中間発表会および修了研究発表会を実施する。</p> <p>(5 長谷川 伸) 研究データを論文ならびにプレゼンテーション資料としてまとめる。修士論文の提出に加え、中間発表、口頭試験において自らの研究成果を文章、プレゼンテーションで伝えることが求められる。</p> <p>(6 篠原 純司) 本授業では、スポーツで発生する様々な怪我と発症のメカニズム、怪我の予防、競技復帰のためのアスレティックリハビリテーション、スポーツ事故の防止と緊急対応など、アスレティックトレーニングやスポーツ医科学領域における研究を通して、受講者の専門性を高めることを目的とする。</p> <p>(8 八板 昭仁) 「スポーツ方法学」、「コーチング学」について、これまでどのような研究が行われてきたかを学習し、実戦の場で生かされ成果がもたらされることが重要であることを理解する。球技のゲーム分析、スポーツ選手の体力測定や意識調査などに関するスポーツの現象についてデータ収集からデータ解析方法までを自らデザインし修士論文を作成する。</p> <p>(2) 鄭 英美) 自身の研究テーマについて具体的に研究を遂行し、修士論文を作成する。そのために研究方法や調査方法について明確に理解する必要がある。自身の研究テーマについてどのような先行研究がすすめられてきたかについて把握する。さらに、自らの研究テーマについての先行研究の精査を通して研究動向を理解する。実際に研究論文の作成を進める。</p> <p>(3) 大下 和茂) これまで行ってきた、予備研究、基礎研究、そして本研究をまとめ、修了研究として完結させる。研究は学内外の専門家から広く意見を徴収し、修士論文としてまとめる。</p>	
--------	-------	---	--

学校法人福原学園 設置認可等に関わる組織の移行表

平成29年度				平成30年度				変更の事由	
	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		入学 定員	編入学 定員	収容 定員		
九州共立大学				→	九州共立大学				
経済学部					経済学部				
経済・経営学科	400	-	1,600		経済・経営学科	400	-	1,600	
スポーツ学部					スポーツ学部				
スポーツ学科	250	-	1,000		スポーツ学科	250	-	1,000	
計	650	-	2,600		計	650	-	2,600	
					九州共立大学大学院				大学院の設置 (認可申請)
					スポーツ学研究科				
					スポーツ学専攻(M)	5	-	10	
					計	5	-	10	
九州女子大学				→	九州女子大学				
家政学部					家政学部				
人間生活学科	40	-	160		人間生活学科	40	-	160	
栄養学科	90	-	360		栄養学科	90	-	360	
人間科学部					人間科学部				
人間発達学科					人間発達学科				
人間発達学専攻	130	-	520		人間発達学専攻	130	-	520	
人間基礎学専攻	60	40	320		人間基礎学専攻	60	40	320	
計	320	40	1,360		計	320	40	1,360	
九州女子短期大学					九州女子短期大学				
子ども健康学科					子ども健康学科				
	150	-	300			150	-	300	
計	150	-	300		計	150	-	300	

※九州女子大学人間科学部人間発達学科は、専攻ごとに教職課程が異なる。